

# グローバル・コミュニケーション研究所

## 2013年度活動概要

〈2013.4～2014.3〉

### 研究プロジェクト

- グローバリゼーションの段階と移民の言語管理——評価の多様性に関する民族誌的研究——

代表：Sau Kuen FAN（本学国際コミュニケーション学科教授）

今年度の共同研究プロジェクトでは、インターアクションにおける「評価」に焦点を当て、言語教育および言語管理の観点から議論を行った。「評価の多様性と言語管理」を全体テーマとし、以下の通り研究会を開催した。

- (1) 言語管理研究会第31回定例研究会 2013年10月19日(土)  
題目：Globalization, Cross-Cultural Communication and the Future of Japanese Society (明治大学、Ross Mouer氏)
- (2) 言語管理研究会第32回定例研究会 2013年11月16日(土)  
題目：学部留学生の社会参画の過程における言語管理——アルバイト場面でのインターアクションを中心に (千葉商科大学、村上律子氏)  
題目：外来性に対する評価の多様性——長期滞在の韓国人居住者の場合 (神田外語大学、今千春氏)
- (3) 言語管理研究会第33回定例研究会 2014年3月8日(土)  
題目：オーストラリア香港人移民の書き言葉のレパトリーをめぐって——多言語景観への留意と評価の分析から (神田外語大学、サウクエン・ファン氏)  
題目：日本の外国人住民の多層的な評価とその文脈——移動する人々の言語レパトリー予備調査の報告 (千葉大学、村岡英

裕氏)

研究会以外に、2013年9月14日にプラハのカレル大学で開催された言語管理国際シンポジウムで発表を行った(Muraoka, H., S. K. Fan, M. Ko. Ethnographic analysis of evaluation diversity in language management: A methodological consideration for the study of migrants in societies of early globalization.)

- アメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語の〈語彙モジュール〉及び〈発音モジュール〉の構築

代表：関屋 康(本学英米語学科教授)

平成24年度、科研費(基盤研究(B))「社会言語学的変異研究に基づいた英語会話モジュールの開発」課題番号: 24320106、受領機関: 神田外国語大学、研究代表者: 関屋康)を受領し、東京外国語大学との共同研究により、4カ年計画で8つの英語変種の〈会話モジュール〉を開発している。本研究所のプロジェクトとしては、すでに開発した「アメリカ英語」「イギリス英語」「オーストラリア英語」の〈会話モジュール〉のスク립トと音声の分析をもとに、それぞれの〈語彙モジュール〉と〈発音モジュール〉を開発する。まず、最もよく比較される「アメリカ英語」と「イギリス英語」を対比させる形を取り、『アメリカ英語とイギリス英語の語彙の違い』および『アメリカ英語とイギリス英語の発音の違い』と題するモジュールを開発する。次に、オーストラリア英語固有の特徴につき、『オーストラリア英語固有の語彙』および『オーストラリア英語固有の発音』と題するモジュールを開発する。

- KUIS生のグローバル意識——KUIS生の海外志向性に関する研究——

代表：澁谷由紀(本学国際コミュニケーション学科講師)

平成25年度は、本研究のパイロット調査期間と位置づけ、以下概要の通りの調査研究を実施した。

5 月

調査票設計のために、本学 8 名の学生を対象にグループ・インタビュー調査を行った。調査項目は 1) KUIS 生のグローバル人材に関する認識、2) グローバル社会で活躍することに対する意向に影響を与えると予想される要因（英語 4 技能に対する自己評価・肯定感、異文化受容態度、海外志向性）とした。

6 月

インタビュー調査のデータを基に、先行研究を参照しながら調査票項目を作成した。

7 月

7/30 の TOEIC® SW 受験者 88 名を対象に調査票調査を実施した。

8-10 月

データの集計と分析を行った。調査項目 1) テキストマイニング、調査項目 2) 単純集計結果の分析を終了した（現在、多変量解析を実施中）。

11-12 月

次年度の調査票設計のために「英語力」と「海外志向性」についてのフォローアップ・インタビュー（12 件）を実施し、現在テキスト・データを分析中である。

● ヒロシマとロスアラモスの歴史を伝える——次世代に継ぐ平和への歩み

代表：榎本智子（当研究所副所長）

本研究では、ヒロシマにおける原爆の歴史を次世代にどのように伝えていくのか、その方法を構築していくことを目的としている。原爆の投下からはほぼ 70 年の節目の年が近づいているが、記憶の風化が懸念されている。アメリカにおいては原爆製造を行ったマンハッタン計画が始動した年から数えた 70 周年の 2011 年に、マンハッタン計画の歴史的意義を後世に伝えるための国立公園計画が打ち出された。マンハッタン計画国立公園計画には賛否両論があるが、その場所が議論を招く新しい「場」

になることは予測できる。今までも、ヒロシマは語り、小説、博物館での展示、ドキュメンタリー映像、映画、アニメーションなど、様々な方法を通じて伝えられてきたが、それに対する反応は大きく対立することもあった。ヒロシマへの歴史認識が違う人々、次世代にどのように伝えていくのが効果的なのか、関係者へのインタビューや資料をもとに研究をしていく。

●外語大における多文化交流——留学生と一般学生の交流の実態と意識の変容——

代表：上原由美子(本学留学生別科講師)

留学生別科では、開設以来、国際交流課や IES 東京センター、学部留学生担当者らと連携し、学部生との交流を中心とした様々な留学生支援を続けてきた。2006年にはこれらを統合した「KUIS 多文化交流ネット」が発足したが、現在、その利用実態や貢献度を検証する時期にきている。本プロジェクトの目的は、システムを通じた留学生と学部生の交流の実態および双方の意識や行動の変容を、質的および量的調査を通じて明らかにし、システム改善に生かすことである。現在までの活動として、登録している学部生 400 余名を対象とした大規模オンラインアンケート、別科と学部の合同授業に関する双方の学生へのアンケート、別科のクラスにビジターとして参加した学部生へのインタビュー、チューター活動場面の調査とインタビュー、IES 修了生へのインタビューとアンケート調査等を行った。結果を1月に学内で報告、3月に社会言語科学会研究大会で発表し、報告書にまとめる。

●東西交流の起源——大航海時代と日本～日本・メキシコ・ポルトガル・スペイン関係史の研究——

代表：柳沼孝一郎(本学イベロアメリカ言語学科教授)

本共同研究は、大航海時代の延長線上で展開された日本とイベリア両国

すなわちポルトガル及びスペインの関係、当時スペインの植民地であったヌエバ・エスパーニャ（現メキシコ）およびスペイン植民地フィリピンと日本の交流、南蛮貿易などの経済交流、南蛮美術および南蛮文化の伝播、キリスト教布教および宣教師の布教活動などの様々な観点から、東西交流の起源、すなわち大航海時代における近世日本とヨーロッパ諸国との交流の歴史変遷を明らかにするものである。本学が総力をあげて展開する共同研究『アジア太平洋総合研究』の先行研究として位置づけられる本共同研究では、共同研究者各自は、関連のある学会あるいは神田外語大学紀要にその成果を発表し、2014 年度内に神田外語大学出版局から『東西交流の起源：大航海時代と日本』として出版する予定である。

### GCI キャンパス・レクチャー・シリーズ講演会

- 第 10 回 (5 月 20 日) 「街角でふれるコトバと社会」シリーズ第 1 回 ヨーロッパ言語グループ
  - イタリア語：キーワード comune (共同体)
  - 飯田巳貴 (専修大学准教授)
  - ドイツ語：キーワード Ordnung (秩序)
  - 豊田洋美 (フェリス女学院大学非常勤講師)
  - 司会：林 史樹 (本学アジア言語学科教授)
  
- 第 11 回 (6 月 3 日) “Cultural Values and the Future of Intercultural Collaboration”
  - John Condon (ニューメキシコ大学リージェント教授)
  - 司会：榎本智子 (当研究所副所長)
  
- 第 12 回 (6 月 14 日) 「街角でふれるコトバと社会」シリーズ第 2 回 東南アジア言語グループ
  - マレー語：キーワード Rojak (マレー風サラダ)
  - 井口由布 (立命館アジア太平洋大学准教授)

ベトナム語: キーワード di choi (遊びに行く)

遠藤 聡(本学非常勤講師)

司会: 林 史樹(本学アジア言語学科教授)

- 第13回(6月18日)「新聞、テレビ、そして GLOBE……報道の現場から」本学アジア言語学科共催

三浦俊章(朝日新聞 GLOBE 編集長)

司会: 水野孝昭(本学アジア言語学科教授)

- 第14回(6月20日) 神田外語大学(KUIS)×東京外国語大学(TUFS) 英語モジュール公開記念講演 「〈世界の英語〉へのご招待——イギリス英語とアメリカ英語の違いを中心に——“An introduction to the Study of Variation in English”」

Jacques Durand(仏トゥールーズ大学教授)

川口裕司(東京外国語大学教授・言語文化学部学部長)

矢頭典枝(当研究所副所長)

司会・通訳: 矢頭典枝

- 第15回(7月12日)「街角でふれるコトバと社会」シリーズ第3回 東アジア言語グループ

中国語: キーワード 和谐(和諧)

飯島典子(広島市立大学准教授)

韓国語: キーワード 약(薬)

林 史樹(本学アジア言語学科教授)

司会: 林 史樹(本学アジア言語学科教授)

- 第16回(9月26日)「カナダ英語はアメリカ英語とどう違う!? ——世界で一番長い国境線の両側の英語——“English at the Canada-United States Border”」本学英米語学科共催

J. K. Chambers(トロント大学教授)

司会：矢頭典枝（当研究所副所長）

- 第17回（10月4日）「街角でふれるコトバと社会」シリーズ第4回 中東言語グループ

ペルシャ語：キーワード خدا（神）

下山伴子（元東京外国語大学講師）

司会：林 史樹（本学アジア言語学科教授）

- 第18回（12月17日）「スリランカとパキスタン——平和で安全な国づくり——」日本貿易振興機構アジア経済研究所開発スクール後援

タヌチャ・クマリ・バンダール・ウエラカットゥ・ムディヤンセラゲ（アジア経済研究所研修生）

ムハマット・サイド・アフマット・チョードリー（アジア経済研究所研修生）

司会：山形辰史（アジア経済研究所開発スクール教授・事務局長）

- 第19回（1月17日）「映画字幕翻訳の世界と英語習得」本学英米語学科・広報部共催

戸田奈津子（本学客員教授）

司会：榎原和生（本学英米語学科主任）

進行：矢頭典枝（当研究所副所長）

## 公開座談会

- 第1回（6月18日）「今日の日本とアメリカ」高杉ゼミ＋水野ゼミ共同オープンゼミ共催

斎藤 彰（神田外語グループ参与）

司会：高杉忠明（本学英米語学科教授）

- 第2回（6月24日）〈シリーズ：留学生と本音で語ろう〉「友達、ともだ

ち、トモダチ……友達ってだれでしょう？」

ディスカッション協力:

本学留学生別科「日本語インターアクション5」クラス生 10名

榎本ゼミ履修生 9名

司会: 上原由美子(本学留学生別科「日本語インターアクション5」担当教員)

- 第3回(11月11日)〈シリーズ: 留学生と本音で語ろう〉「私たちが経験した学校生活——何かのために泣いたことはありますか? 笑ったことはありますか?」

ディスカッション協力:

本学留学生別科「日本語インターアクション5」クラス生 7名

異文化コミュニケーション論 IIB 受講生 60名

榎本ゼミ履修生 9名

司会: 榎本智子(当研究所副所長)